

時事新報

國會の解散平穏なり

國會の解散は無限の不幸あれども一時の情勢止むを得ざるみとしして爰に我輩が特に満足するは其解散前後に物論の平穏ある一事あり抑も今回解散は何れの處より源を發したるや固より測り知る可き限りに非ざれども斯る場合には孰もすれば浮説の行はれ易きものにして其流傳の間には隨分間違の生するふともある可しと思の外昨日より今日に至り滿都寂として聲あし我國の政治論は熱度高しあど人も云ひ我輩も時として憂言したるとなきに非されども此大切なる場合に臨んで此平穏とは我輩は世人と共に前言の粗忽を愧るのみあらず其慚愧は内の事にして外に對しては日本政治社會の德義を誇るものあり殊に陸海軍の如き曾て此事に與からざるのみか殆んど解散の有無をさへ知らざるもの如し國家の大美事と云ふの外あし西洋諸國にても軍人の時として政治に干涉せんとする勢あるに付ては讀者の夙に憂る所にして有名ある英國の學者す。し如し國家の大美事と云ふの外あし西洋諸國にても軍人の時として政治に干涉せんとする勢あるに付ては讀者の夙に憂る所にして有名ある英國の學者す。

ヘンリイ・メイン氏の著書に陸海軍と民主政治の兩立

し難さると論したる一節あり曰く

規律戎器共に完備したる軍隊と民主政府を奉する國

民とは其組織全く反対して水火相容れるものなり

軍隊に於ける第一の德義は服従にして其最も重き罪

は服従に躊躇するふとされば兵士たる者は上官より

命令を受ければ假令其命の不利あるひと我心に明白

なる場合に於ても之を拒むとを得ざるの規律あり

然るに今民主政治に由て人民の享くる第一の権利は

我長上の者を批難するふとにして人を譽め人を謗る

に毫も猶豫せざる彼の輿論あるものは即ち民主政治

の骨髄たるを以て見れば軍隊と民主政府と其奉する

斯の主義兩立すべからざるや明にして若し一人にて

ふとあからざり之に從ふとすれば先づ其本心を二分する

然るに今民主政治に由て人民の享くる第一の権利は

我長上の者を批難するふとにして人を譽め人を謗る

に毫も猶豫せざる彼の輿論あるものは即ち民主政治</p